

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 3 月 17 日 (2005.3.17)

【公開番号】特開 2000-279790 (P2000-279790A)

【公開日】平成 12 年 10 月 10 日 (2000.10.10)

【出願番号】特願 平 11-90632

【国際特許分類第 7 版】

B 0 1 J 3/00

B 0 1 J 3/04

C 0 2 F 1/74

【F I】

B 0 1 J 3/00 A

B 0 1 J 3/04 Z

C 0 2 F 1/74 1 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 4 月 19 日 (2004.4.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

反応器 1 2 は、圧力容器 4 0 と反応カートリッジ 4 2 とを貫通させて反応カートリッジ 4 2 の内部に突出させた二流体ノズル 3 4 と、反応カートリッジ 4 2 の内部から反応カートリッジ 4 2 及び圧力容器 4 0 を貫通する処理液導管 4 8 と、環状部 4 6 に空気を送入する空気送入ノズル 5 0 とを備えている。環状部 4 6 と反応カートリッジ 4 2 内とを連通させる連通孔 4 4 は、本例では、二流体ノズル 3 4 の周りに形成されている。

二流体ノズル 3 4 は、内管 5 2 及び外管 5 4 が、それぞれ、被処理液管 2 2 及び空気送入管 2 6 に接続され、空気によって被処理液をアトマイジングして噴霧状で反応カートリッジ 4 2 内に導入している。

処理液導管 4 8 は処理液管 1 4 に接続されている。また、空気送入ノズル 5 0 は空気送入管 2 6 から分岐した空気送入枝管 5 6 (図 1 参照) に接続され、空気を環状部 4 6 に導入し、次いで連通孔 4 4 を介して反応カートリッジ 4 2 内部に流入させ、酸化剤の一部とする。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

【発明の実施の形態】

以下に、実施形態例を挙げ、添付図面の図 1、図 2 を参照して、本発明の実施の形態を具体的かつ詳細に説明する。

実施形態例 1

本実施形態例は、本発明に係る超臨界水反応装置の運転停止方法を前述した超臨界水反応装置 1 0 の通常運転停止に適用した実施形態の一例である。

超臨界水反応装置 1 0 の運転を通常停止する際には、通常運転時と同様に、空気圧縮機 2 8 を動かし続けながら、空気送入管 2 6 を経由して二流体ノズル 3 4 から空気を反応器 1

2 の反応カートリッジ 4 2 内に、また、空気送入管 2 6 及び空気送入枝管 5 6 を經由して空気送入ノズル 5 0 から空気を環状部 4 6 に供給しつつ、被処理液管 2 2、アルカリ剤送入管 3 1、及び補助燃料管 3 0 に設けた開閉弁（図示せず）を閉止し、かつ、処理液管 1 4 に設けた開閉弁（図示せず）は開口したままとする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

次いで、反応器 1 2 の温度が所定温度、例えば臨界温度以下、好ましくは 3 0 0 以下に降温した時点で、空気送入管 2 6 に設けた開閉弁（図示せず）を閉止して、空気の供給を停止する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

#### 実施形態例 2

本実施形態例は、本発明に係る超臨界水反応装置の運転停止方法を前述した超臨界水反応装置 1 0 の緊急運転停止に適用した実施形態の一例である。

超臨界水反応装置 1 0 の運転を継続している際に、例えば反応器 1 2 内の温度が設定温度より高くなり、緊急停止する際には、通常運転時と同様に、空気圧縮機 2 8 を動かし続けながら、空気送入管 2 6 を經由して二流体ノズル 3 4 から空気を反応器 1 2 の反応カートリッジ 4 2 内に、また、空気送入管 2 6 及び空気送入枝管 5 6 を經由して空気送入ノズル 5 0 から空気を環状部 4 6 に供給しつつ、被処理液管 2 2、アルカリ剤送入管 3 1、及び補助燃料管 3 0 に設けた緊急遮断弁（図示せず）を閉止し、かつ、処理液管 1 4 に設けた開閉弁（図示せず）は開口したままとする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

次いで、反応器 1 2 の温度が所定温度、例えば臨界温度以下、好ましくは 3 0 0 以下に降温した時点で、空気送入管 2 6 に設けた開閉弁（図示せず）を閉止して、空気の供給を停止する。